

すべての多様性を輝かせるために

あらゆる多様性の尊重、公平性の確保で、大学の環境改善を図る

京都大学は、あらゆる多様性と公平性を尊重し、包摂的な教育研究環境・キャンパス環境の整備を推進しています。性の多様性や、様々な国・地域出身の方の文化・慣習の理解と尊重、心身の障害や状態、家庭環境等で学修や研究・職務に不自由のある方など、それぞれに応じた、幅広くきめ細やかな支援に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進に向けた取組の強化 www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-04-01-0

京都大学男女共同参画推進アクションプラン(2022年度～2027年度)では、特に女性研究者の育成・獲得を重点事項として掲げ、①全学の女性教員比率(特定教員を含む)を2027年度に20%とする、②役員会構成員の女性比率を2027年度に25%とする、という数値化した達成目標を設定し、実現に向けた各種取組を定めています。

また、男女共同参画推進センターでは2022年度から四つの専門部会を設置して各種取組を一層強化し、例えば育児・介護支援では保育園入園待機乳児保育室の設置やベビーシッター利用育児支援、医学部附属病院と連携した病後児保育の実施など多様な制度の充実を図っています。



広報誌『紅萌』2022年春号の巻頭特集では、総長とともに、若手教員と大学院生、学部生がそれぞれの経験や思いを、ジェンダーの視点も交えて語り合った。

女性研究者・学生の顕彰

若手女性研究者の優れた成果を讃える「京都大学たちばな賞」や、意欲ある女子学生を支援する「京都大学久能賞」の授賞は、いずれも女性研究者の励みとなるだけでなく、受賞者が後に学外の著名な賞を獲得するなど、確実なステップアップにつながっています。

女子中高生への応援 www.cwr.kyoto-u.ac.jp/rooting/

研究の魅力を女子中高生や保護者の方々に伝える取組も積極的に行っています。

毎年開催している「女子高生 車座フォーラム」では、分紹介に加え、研究のおもしろさ、目指す将来などについて、京都大学の学生や研究者と女子高生が直接語られます。当日の様子は写真やアンケート結果とともにウェブサイトで公開しています。さらに、「女子高生応援大使」の出身高校への派遣や、「出前授業」「オープン授業」も実施し、2022年からは広報誌『京からあすへ』を発行して、ロールモデルとなる女性研究者を紹介しています。



女子高生応援大使が出身高校を訪問

男女共同参画支援たちばな基金

創造的な学問・研究の発展のためには、十分な研究時間を確保することがとても重要です。京都大学では2019年に、「やりたいこと、あきらめない」をキャッチフレーズに「男女共同参画支援たちばな基金」を創設しました。同基金によって育児・介護中の研究者を対象とした支援を充実させ、意欲ある学生・研究者が安心して学業・研究に取り組める環境を作ります。

www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/tachibana/

障害のある学生への支援

学ぶことや研究することに障害(社会的障壁)が生じたとき、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。

学生総合支援機構障害学生支援部門(DRC)では、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT(支援技術)の提供など、各種修学支援を行っています。

また、キャンパス内のスロープや多機能トイレなどバリアフリーの充実を進め、車椅子利用者の意見などを取り入れながら調査・編集、検証を行った「フリーアクセスマップ」を公開しています。

www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/

